

【第七回】日本語試験にチャレンジしよう!

解答用紙はHPからダウンロードできます。URL: <http://www.kiv.or.jp>
 ・実習生がらの解答用紙を各企業様にて取りまとめていただき、FAX等で月末までに本部事務局に送っていただけます。
 (連絡先 FAX078-796-3620 又はメールにて各担当者まで)
 ・最高得点者の中から抽選で1名にQUOカード1,000円分をプレゼント!

問題1 ()に入る表現として最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- 問1 得意先の突然の倒産は、私には青天の()震だった。
 ① 劈 ② 壁 ③ 碧 ④ 霹
- 問2 新商品の販売促進方法について、部長の決()を仰いだ。
 ① 裁 ② 裁 ③ 済 ④ 算
- 問3 今後状況が好転することもありうるのだから、今勝負に出ることは、必ずしも()策とはいえない。
 ① 特 ② 得 ③ 画 ④ 対
- 問4 その紙は分厚いので、裁()するのに時間がかかる。
 ① 段 ② 弾 ③ 断 ④ 培

問題2 次の★に入る最も良いものを、次の1・2・3・4から一つ選びなさい。

- 問1 田中選手が今シーズン ① ② ★ ③ のニュースを見て驚いた。
 1 彼の怪我 2 活躍するのを 3 楽しみに待っていた 4 だけに
- 問2 先生が ① ② ★ ③ です。
 1 はず 2 おいでに 3 こちらに 4 なる
- 問3 来週には気温 ① ② ★ ③ ある。
 1 が 2 下がる 3 おそれが 4 大きく
- 問4 どんなに必死で勉強しても、① ② ★ ③ だ。
 1 しまえば 2 それまで 3 間違えて 4 本番で
- 問5 この映画は ① ② ★ ③ 作られたそうだ。
 1 もとに 2 事件を 3 起きた 4 実際に
- 問6 特別な ① ② ★ ③ してください。
 1 かぎり 2 休まないように 3 ことが 4 ない
- 問7 健康という ① ② ★ ③ わかるのだ。
 1 はじめて 2 その大切さが 3 失って 4 ものは
- 問8 料理学校に ① ② ★ ③ 料理はどれもおいしい。
 1 佐藤さんの 2 通っている 3 作る 4 だけあって
- 問9 カロリーの ① ② ★ ③ 入院した。
 1 食べ続けた 2 病気になって 3 高いものを 4 あげく
- 問10 その鍵を ① ② ★ ③ 気をつけなさい。
 1 なくすと 2 開けることが 3 金庫を 4 できなくなるので

問題3 次の文章を読んで、後の問いに対する答えとして最も良いものを次の1・2・3・4から一つ選びなさい。

問1 恐れてはいけないとか、不安を持ってはいけないとか言われることがあるかもしれない。しかし、恐怖や不安は、車に例えればブレーキである。車の安全にとって重要なのはアクセルではなく、ブレーキなのだ。アクセルをふかして(注1)スピードを出すことより、危険を察知して(注2)ブレーキをかけて止まったり、スピードを落としたりすることで事故は防げる。その意味で、ブレーキのない車を走らせることはできないのだ。われわれ人間も恐怖や不安という名のブレーキを使って、自分たちの安全に役立つことが大切だ。

(広瀬弘忠『人はなぜ危険に近づくのか』による)

(注1) アクセルをふかす：アクセルを強く踏んでエンジンを速く回転させる (注2) ～を察知する：～に気がつく

- 問 筆者は、恐怖や不安をどう捉えているか、正しいものを選びなさい。
 1 恐怖や不安は安全性の向上を妨げることがある。 3 恐怖や不安はブレーキとなり、正しい行動を妨げる。
 2 恐怖や不安を取り除くことで、安全につながられる。 4 恐怖や不安を感じることで、安全に役立つ。
- 問2 人に強い影響を与えるのは大部(注1)からなる作品とは限りません。何気なく(注2)読んだ、たった一言に心打たれることもあります。そして、書物を超えて、私達は世の中のあらゆるできごとについても同じように、そのときどきにに応じた深度で読んでいるのです。つまり、読み取ろうと思えばどんなできごとからでも「自分にとって意味あること」を読み取れるということではないでしょうか。学ぼうとする姿勢があれば何からでも価値あることが学び取れるのだとつくづく私は思うのです。
 (村田夏子『読書の心理学―読書で開く心の世界への扉』による)
 (注1) 大部：本などの冊数やページ数が多いこと (注2) 何気なく：はっきりとした目的や理由を持たないで
- 問 「人に強い影響を与えるのは大部(注1)からなる作品とは限りません」とありますが、この理由について正しいものを選びなさい。
 1 強い影響を与えるかどうかは、読み手の姿勢で決まるものだから。 3 人々にどのような影響を与えるかは、書物によってそれぞれ異なるから。
 2 どのような作品でも、読めば読むほど強い影響を受けるものであるから。 4 読んだ冊数ではなく、どのような本を読んだかが重要だから。

問3 ぼくはいつも思うのだが、絵画にとらえたものをただ単に描いても、決して絵画にはならない。絵画のかなた(注1)にかくされているものをとらえて、それを画面に定着させたとき、はじめて絵画が誕生する。絵画とは目の前の自然を心のなかに消化し、それをもう一度吐き出す作業によって生まれるのだ。そうすることによってはじめて普遍的な(注2)美の世界が出現するのだと思う。だから芸術というものは、理屈(注3)では解決できないものなのだ。理屈を超えたところに本当の美がある。
 (石本正『絵をかくよろこび』による)

(注1) かなた：向こう (注2) 普遍的な：広くすべてのものに共通して見られる (注3) 理屈：論理的な説明

- 問 筆者が考える「絵画」とはどのようなものか。
 1 目で見たものを想像力で補いながら美しく描き表したもの 3 目の前に存在しないものを想像しながら描き表したもの
 2 目で見たものをそのまま正確に描き表したもの 4 目の前にあるものを心のなかで感じ取り、描き表したもの